

平成 29 年 6 月

# 学校関係者評価報告書

学校法人 名古屋大原学園  
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校  
学校関係者評価委員会

平成 29 年 3 月に実施しました、自己点検・自己評価の結果をもとに、学校関係者評価の実施を行いました。「1. 教育理念・目標」以下 11 項目にわたり、学内で評価された問題点とその改善のための方策並びに両者に関する関係者からの評価と助言を掲載します。

## 1. 教育理念・目標

### 【課題】

自己点検・自己評価では、全体として「適切～ほぼ適切」と評価された。

昨年度は「④学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか」について改善に取り組んできたが、その結果「適切」の評価割合が増加した。今年度も学校からの積極的な情報発信についてさらに改善を進める。

### 【今後の改善方策】

平成 29 年 3 月に全教職員を対象にした研修会を実施し、学校の教育理念、年間計画について確認した。

学校からの情報発信の一環として担任と保護者の連携も兼ねて各家庭に担任による電話連絡を実施し、学校の教育方針や指導内容を保護者と共有することで相互理解を深めた。今年度もさらに継続して保護者との連携に努める。

毎日のホームルームを活用した担任教員による朝礼啓蒙、授業担当教員による授業内啓蒙、校長による講演啓蒙などの場を利用して学生への意識浸透を継続する。特に訪日観光客数が多い国の社会情勢や歴史、文化、風習、宗教観などを授業カリキュラムに取り入れ、学校として一層のグローバル化教育に努める。

### 【関係者評価】

昨年度の取り組み事項であるビジネス基礎力（コミュニケーション能力、協調行動力、自己管理能力など）の養成については、高い水準で学生への定着が認められる。さらに平成 29 年度は、ビジネス基礎力と専門科目授業とを連動させた海外行動力の養成や、英語によるビジネスマナートレーニング、海外研修が計画されている点も評価できる。

平成 28 年の訪日外国人観光客は 2400 万人と昨年を大幅に上回り、さらに今年も昨年を上回るペースで増加している。観光業界やホテル業界では、2020 年の東京オリンピック開催、2017 年のリニア新幹線開業までこの勢いは続く予想されており、急激に変化する社会情勢に対応できる仕事力をもった人材の育成が急務である。

今後も時代の変化をしっかりと捉え、業界から必要とされる人材の育成に努めてもらいたい。

## 2. 学校運営

### 【課題】

全体として「適切～ほぼ適切」と評価された。

「⑧情報システム化等による業務の効率化が図られているか」について、現在学生管理（成績管理、出欠管理など）システムの更新作業が進んでおり順次稼働が始まっている。新しい出欠管理システム、成績管理システム、証明書発行システムなどを活用した一層の業務効率化を進めていく。

### 【今後の改善方策】

新しい学生管理システムの円滑な導入と運用に向けた職員の勉強会を実施し、業務効率化を一層進める。

### 【関係者評価】

「学校運営」に関する自己点検・自己評価は正常に行われており、評価項目に関して大きな課題は見出せない。昨年度より準備を進めてきた新しい学生管理システムの正式な運用が今年度から始まることで、一層の業務運営の効率化を期待する。

## 3. 教育活動

### 【課題】

全体として「適切～ほぼ適切」と評価された。

ただし「⑬関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研究や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか」、「⑭職員の能力開発のための研修等が行われているか」では改善の余地があると心得て、特に教員の指導力向上に継続的に取り組む。

### 【今後の改善方策】

昨年の学校関係者評価委員会からは「一般論として採用面接試験においてコミュニケーション能力が不足する学生が多いように見受けられる」との指摘があった。特に当校の学生に対する指摘ではなかったが、日本語による基本的なビジネストーク能力強化を推進し、コミュニケーション能力向上に努める。

毎月1回の定期的な教員研修会を実施し、業界を取り巻く最新情報、業界が学校に対して求める人材像、必要なスキルなどを情報交換する。また社会情勢、時事問題に精通するための勉強会も同時に実施する。さらに専門科目以外の資格取得奨励とこれによる業務範囲拡大を目指し、学生に対して幅広い指導ができるよう体制づくりを継続する。

### 【関係者評価】

昨年からの取り組み事項であるプレゼンテーションやグループディスカッションなど、学生が就職後に力を発揮できるカリキュラムについては、専門科目教育との連動など工夫されており評価できる。ま

た、学内で養成したこれらの基礎力を定着させるため、従来実施しているホテルや結婚式場、旅行会社の内勤や添乗など将来の職場を想定した実地研修についても、企業と連携した改良が加えられている。

さらに、教職員の指導力向上については今年度より自己研鑽の年間計画を上長との相談の上で立案・推進することになった。これにより、個人の能力向上や担当業務範囲の拡大はもちろん、外部環境の変化に対応できる組織力の強化も期待できる。

## 4. 学修成果

### 【課題】

全体としては「適切～ほぼ適切」と評価された。

評価項目のうち「④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」「⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか」について改善の余地はまだあるものと心得て引き続き改善を継続する。

### 【今後の改善方策】

開校から24年が経過し、業界の企業・団体に管理職クラスとして活躍する卒業生が多数いる。これら卒業生を業界で活躍する先輩として学校に招き、業界の様子や仕事のやりがいなどを授業として在校生に語ってもらう「OB講演会」を実施している。

この取り組みは卒業生の社会的な活躍やキャリア形成への効果を学生が直接確認できる貴重な機会であり、今後も継続実施する。

### 【関係者評価】

卒業生との連携により最新の業界の情勢を日々の授業に反映し、業界が求める人材を育成できるのは専門学校ならではの柔軟性である。例年実施しているOB講演会は在校生にとっては就職活動のよい啓蒙になっているが、さらに今年度は卒業生の提案で企業研修を実施することによって、学園と卒業生の良好な関係が伺える。ぜひ、このような愛校心あふれる卒業生を大切にしておいて学園の伝統を築いてもらいたい。

## 5. 学生支援

### 【課題】

全体としては「適切～ほぼ適切」と評価されたが、昨年の点検結果と大差なく、大幅な改善は見られなかった。

今年度は点検項目のうち「⑥学生の生活環境への支援は行われているか」を重点項目として改善を進める。

### 【今後の改善方策】

従来、担任と保護者との連携は図ってきたが、学生の保護者に対して定期的に担任からの電話連絡を行い、家庭と学校の情報共有を促進し相互の信頼関係を強化する。また家庭との連携を通して、学校の教育理念や教育内容に対する理解を深めることも目的とする。

クラス担任と学生との面談回数を増やし、学生個々の特徴や背景を理解することに努める。

#### 【関係者評価】

昨年度の学校関係者評価委員会で提言した保護者との連携による学生支援については、全教職員が協力して対応に当たっており、退学者を最小限にとどめている。さらに、全教職員がメンタルヘルスマネジメント資格、就職指導を担当する教職員がジョブカード作成アドバイザー資格を取得しており、過去の経験だけでなく理論に基づいたよりの確な指導ができるようスキルアップを図っている点も評価できる。専門学校での学習や就職活動に悩みを抱える学生を精神的にもサポートできるよう、今後とも教職員の指導力向上に力を注いでもらいたい。

## 6. 教育環境

#### 【課題】

全体として「適切～ほぼ適切」と評価された。

海外行動力の育成を目指して団体ツアー型海外研修旅行を脱却した新しい海外研修旅行（グアム）を企画実施した。一定の成果が得られたが、反省点を踏まえて引き続き新しい海外研修旅行の企画開発を継続する。

#### 【今後の改善方策】

今年度も海外行動力を育成する海外研修旅行を12月に予定し、これに向けた準備を4月から授業に取り入れて学生の事前知識を高めて渡航できるよう進める。さらにこの研修旅行の経験をその後の就職活動に連動できるような研修内容とする。なお、海外研修旅行の実施に際しては最新の国際情勢に注意し、安全確保に万全を期す。

#### 【関係者評価】

昨年度の学校関係者評価委員会で提言した海外研修旅行の充実については、日々の専門科目の授業と海外行動力養成の連動を図るなど工夫が見られる。ただし、今年度は海外の情勢が不安定なため慎重な対応を検討してもらいたい。

また、学習環境の整備については昨年度より Office365 が導入され、さらに進歩している。グループウェアを活用した教職員と学生のコミュニケーション、教材の共有・配布、課題の提出、テストの実施などが非常に効率よく行われている。今後もこのシステムの活用法を研究して教育効果を上げてもらいたい。

## 7. 学生の受入れ募集

### 【課題】

自己点検では「適切」～「ほぼ適切」の評価であるが、現状で入学者数は募集定員に達していない。より多くの入学者獲得のため、さらなる工夫が必要である。

### 【今後の改善方策】

学内に設置した広報委員会は、学校が進める教育改革を入学希望者や保護者に分かりやすく説明する方法を開発している。教職員全員がこれを活用して教育成果を正確に伝えられるよう努める。

学生に対する経済的支援策として、学費の一部を減免する奨学生制度や月払い分納制度を整備している。これら支援策を積極的に告知して入学者増加を図る。

またホテル・ブライダル科は厚生労働省の教育訓練給付制度「専門実践職業訓練給付金」の支給対象に指定されているが、この制度を利用した入学者はまだいない。広報部署と連携して該当者に対する告知策を進める。

### 【関係者評価】

自己点検・自己評価結果は良好であり、大きな課題はない。学費免除や学費分納など経済的な面での学生支援は今後とも継続してもらいたい。

また、業界を取り巻く社会情勢、時代の変化を見据えた柔軟なカリキュラム編成と教育環境の整備により、就職後に力が発揮できる人材育成ができる教育内容が整っている。ぜひ、これら名古屋大原学園の魅力を広報し、さらなる入学者増を目指してもらいたい。

## 8. 財務

### 【課題】

すべての評価項目で「適切」と評価された。

### 【今後の改善方策】

大きな課題は見受けられないが、学園経理財務室と連携し引き続き適切に対応する。

### 【関係者評価】

財務については非常に安定しており、問題は見受けられない。今後も適切な財務運営、情報公開による透明性の確保など、学校法人立専修学校として相応しい財務体質を継続してもらいたい。

## 9. 法令等の遵守

### 【課題】

評価項目はすべて「適切」と評価された。この結果に満足することなく学校法人立専修学校として引き続き法令遵守に努める。

### 【今後の改善方策】

学校法人名古屋大原学園の教職員としての誇りと自覚を持ち、校長が先頭に立って法令遵守に努める。

### 【関係者評価】

法令遵守に関しては、毎年自己点検結果に基づいた学校関係者評価委員会が適切に開催され、その関係者評価結果は報告書としてまとめられ、学園のホームページで公開されており問題はない。今後も学校法人立専修学校として法令遵守の姿勢を堅持してほしい。

## 10. 社会貢献・地域貢献

### 【課題】

全体として「適切～ほぼ適切」と評価された。今年度も引き続き「②学生のボランティア活動」の奨励支援を強化し継続する。

### 【今後の改善方策】

従来から学校に対してボランティア要請があった場合、その情報を学生に提供し参加を促していた。このような受け身のボランティアだけでなく、ボランティア募集情報を積極的に収集し、学生が多くのボランティア情報に接する機会を準備する。また学生自身が主体となって運営するボランティアイベントを企画する。

名古屋駅周辺は新しい大型ビルが開業し、新しいホテルやレストラン、結婚式場が次々にオープンするなど街全体が生まれ変わりつつある。このような環境の中で集客イベントの提案、地元商店街の活性化提案など、教育成果を社会や地域に還元するような仕組みづくりを研究する。

### 【関係者評価】

昨年度の学校関係者評価委員会で提言したボランティア活動の実施に向けた検討については、具体的な動きが出てきたことを評価したい。昨年度より始まったブライダル業界を取り巻く環境（晩婚化、ナシ婚等）を改善するためのボランティア活動は、専門科目との授業とも連動しており年間を通じて計画的に実施されている。また、そこに参加する学生が活動から学ぶことも多くあり、今後も継続してもらいたい。

## 11. 国際交流

### 【課題】

外国人留学生向けの募集要項を毎年制作し配布しているが、入学者数は僅かである。これは国家資格の受験対策には高度な日本語読み書き能力が必要であり、片言の日本語会話ができる程度では授業内容が理解できないためである。日本の滞在ビザ取得を目的とした入学問い合わせは多数あるが、実際の授業内容を説明するとほとんどのケースで入学には至らない。

国際化が進む現在、学内に多数の留学生が在籍するキャンパスは日本人学生にとっては刺激を受ける好環境になりそうである。ただ学習には高度な日本語能力が必要になるため、実際の留学生入学者は少ない状況にある。

学校ホームページを通して資格合格状況、合格率、就職内定状況、内定率などを詳しく公開しているが、すべて日本語表記であり、国外に対する情報発信は行っていない。従って国外で評価される仕組みは現状では無い。

### 【今後の改善方策】

外国人留学生を安易に大量入学させる方針ではないので、当面この状況は変わらない。ただ、近隣の日本語学校に在籍する外国人留学生との交流プログラムを実施したところ、双方の学生に学習メリットが多いことが確認できた。当校学生の異文化理解や語学学習のきっかけになることを期待して今後も継続する。

### 【関係者評価】

昨年度から始まった日本語学校で学ぶ留学生との交流会は、今年度も内容の水準を上げながら継続してもらいたい。世界十数カ国の留学生との交流は大原の学生にとって大変刺激になっており、これを機に海外渡航や短期留学、外国語学習に自発的に取り組む学生も増加しており、たいへん評価できる。

また、海外研修旅行は貴重な経験することができる絶好の機会であるが、昨今の国際情勢は決して安全とは言えない。国内に居ながらにして海外研修と同等の教育効果が期待できる授業や研修の手法を今後も研究してほしい。

## 学校関係者評価委員会

役職	氏名	現職
委員長	児玉 一夫	株式会社キャッスルサービス 専務取締役
委員	鈴木 宏典	東洋ツーリスト株式会社 営業部課長
委員	矢野かおり	株式会社ホテルグランコート名古屋管理部係長